



小田原男声合唱団

第54回定期演奏会

2026年5月24日（日）

13時45分開場 14時30分開演

小田原三の丸ホール大ホール

後援 小田原市
小田原市教育委員会
小田原箱根商工会議所
日本男声合唱協会（JAMCA）
神奈川男声合唱協会（KAMCA）
湘南合唱連盟
小田原地区合唱連盟



第53回定期演奏会より

♪ ご挨拶 ♪

小田原男声合唱団第54回定期演奏会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

日頃から、地域の音楽文化の向上に多大な貢献をいただいている貴団の活動に、心より敬意を表します。貴団は、長年にわたり定期演奏会を開催され、地域の皆様に感動と喜びを届けてこられました。その継続的な取り組みは、一朝一夕で成しえるものではなく、皆様のご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

さて、本市では「文化の力」をまちづくりの原動力のひとつとして位置づけ、多彩な文化が息づき、市民が誇りと愛着を持てるまちを目指しています。音楽には、人々の心をつなぎ、活力や癒しを与える力があります。他団体とともに合唱をつくりあげる貴団の活動は、創造力や他者を思いやる心などを育み、困難な時代を私たちが乗り越えていく上で、大きな支えとなるものであると感じています。本日の演奏会が、音楽を愛する方々の絆を深める場となり、本市がさらに音楽のあふれる街として輝いていくきっかけとなることを心から願っています。

本日のプログラムには、本市ゆかりの詩人である北原白秋作詩の「雪と花火」や、名曲「月光とピエロ」など素晴らしい合唱曲が並びます。ご来場の皆様には、素晴らしい合唱とともに感動を共有し、お楽しみいただければ幸いです。結びに、小田原男声合唱団のますますのご発展と関係者の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。



小田原市長
加藤 憲一

本日は、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。1971年の創立から55年の本日、小田原男声合唱団第54回定期演奏会を開催することができました。これもひとえに本日お越しいただきましたお客様と、小田原市はじめ関係各位のご理解、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

小田原男声合唱団のこの1年の活動といたしましては、昨年4月に小田原で35年ぶりに開催されました第25回日本男声合唱協会「JAMCA小田原」演奏会を主催団体として成功に導きました。6月には第72回湘南合唱祭、10月には第58回小田原市民合唱祭に出演し、さらに11月には浜離宮朝日ホールで開催されました第25回東京男声合唱フェスティバルに初出演しました。また、今年1月10日には、福永陽一郎生誕100年記念コンサートに出演し、初代常任指揮者である福永先生の生誕100年をお祝いしました。

本日の演奏会は、3ステージで構成されております。第1ステージ「雪と花火」は、小田原ゆかりの北原白秋の作詩で、私どもと縁も深い多田武彦先生の作曲です。第2ステージ「歌謡デラックス」は、昭和の名曲を合唱向けにアレンジした皆様もご存知の曲ばかりです。お隣の方にご迷惑にならない程度に客席で口ずさんではいかがでしょうか。

そして第3ステージ「月光とピエロ」はプログラムの表紙にもあるピエロの悲しみそのものを歌っています。世界初の合唱組曲であり、男声合唱の最高峰にあるこの作品が皆様の心の奥深くに届くことを願っています。

これまでご指導いただきました辻秀幸先生、村田雅之先生、中根希子先生、杉山範雄先生にこの場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

結びに、コロナ禍以来、合唱活動を取り巻く状況が厳しかった時も、私たち小田原男声合唱団の活動にご理解とご協力をいただきました関係者の皆様、そして、なによりもご家族の皆様にご心より感謝申し上げます。



小田原男声合唱団
団長 杉本 健二

♪ プ ロ グ ラ ム ♪

I 男声合唱組曲 「雪と花火」

北原 白秋 作詩 多田 武彦 作曲
指揮 村田 雅之

I 片恋
II 彼岸花

III 芥子の葉
IV 花火

II 男声四部合唱のための 「歌謡デラックス」 石若 雅弥 編曲

指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

I 北酒場
II 津軽海峡・冬景色
III 喝采

IV 雨の慕情
V さそり座の女
VI きよしのズンドコ節

————— 休 憩 —————

III 男声合唱組曲 「月光とピエロ」

～ワンステージメンバーを迎えて

堀口 大學 作詩 清水 脩 作曲
指揮 辻 秀幸

1. 月夜
2. 秋のピエロ
3. ピエロ

4. ピエロの嘆き
5. 月光とピエロとピエレットと唐草模様

※ワンステージメンバー：第Ⅲステージ（ワンステージ）に限り参加いただいている協演メンバー

許可なく「写真・動画撮影」「録音」などはできません

♪ 曲 目 解 説 ♪

I 男声合唱組曲 「雪と花火」 北原 白秋 作詩 多田 武彦 作曲 指揮 村田 雅之

この組曲のもとになっている詩集「雪と花火」は北原白秋（1885～1942）が詩集「東京景物詩」を増補して1916年7月に発行した詩集である。この詩集には白秋の1909年2月から1913年4月に至るまでの80篇余りの詩が含まれている。

1909年は白秋が「スバル」創刊に参加、木下杢太郎らと詩誌「屋上庭園」を創刊、処女詩集「邪宗門」を上梓した年であり、白秋の青春の花の時期に当たっている。

白秋の詩の多くは、単なる言葉の羅列では無く、読者に視覚的・聴覚的なイメージを起こすものになっている。このリズム感や音楽性がその後の多くの詩人や作詞家の参考になったと言える。1918年白秋は夫人の病氣療養を機に小田原に移住。その頃、鈴木三重吉が主宰した児童雑誌「赤い鳥」の童謡、児童詩欄を担当し、童謡作家としての地位を確立した。

1922年山田耕筰と「詩と音楽」を創刊し、その後二人のコンビで数多くの童謡作品を世に送り出した。その中の「この道」「帰る帰ろ」「からたちの花」等は今でも広く歌い継がれ、小田原男声合唱団の愛唱歌である。彼は、全作品の約半数を小田原で創作したと言われる。

作曲者多田武彦（1930～2017）は、大阪生まれの作曲家で、男声合唱曲を中心に合唱曲の作曲を手がけており、男声合唱愛好者から「タダタケ」の愛唱で親しまれている。95曲の男声合唱組曲を世に送り出しているが、組曲「雪と花火」はその3番目の作品で同志社グリーンクラブの委嘱により作られ、4曲からなる全曲の初演は1957年3月16日に同志社グリーンクラブによって行われた（多田武彦データベース）。全曲の初演前に2曲目の「彼岸花」が1955年の全日本合唱コンクール課題曲公募で佳作を受賞した。

この「雪と花火」の姉妹作とも言える組曲に「東京景物詩」（6曲構成、初演1991年東京大学音楽部コーラルアカデミー38回定期演奏会）がある。

当団では1991年の第20回定期演奏会で、多田武彦の指揮で彼の作品「柳河風俗詩」を演奏し、第30回定期演奏会で「西湘の風雅」を委嘱作曲して頂き演奏し、その後2006年「冨寒小景」2008年「四季點綴」2011年「達治の旅情」の作曲を委嘱し演奏している。また2025年の第25回日本男声合唱協会「JAMCA小田原」演奏会では、神奈川男声合唱協会（KAMCA）が合同で彼の組曲「富士山」を演奏した。

I 片恋

1909年10月、処女詩集「邪宗門」刊行の年の作詩である。白秋はこの詩を「我が詩風に一大革命を引き起こした詩。後来の新俗謡詩はすべてこの一篇に萌芽して複雑に進展して行った」（「雪と花火余言」と言っている。また永井荷風の絶賛を受けたとも言われる（「北原白秋詩集」神西清編による）。

片恋＝かなわぬ恋、現代語なら「片思い」をただ静に受け止める心情が出され、過度な旋律ではなく、落ち着いた低音の柔らかな和音が大人の「片恋」を静かに、語りかけるように歌っている。

II 彼岸花

1911年11月の作詩である。この年に白秋は「明治十大文豪詩人の部 第一位」に最年少で選ばれた。

執念深い女にとりつかれ逃れられない男を、燃えるように赤く咲きながらやがてしぼむ「彼岸花」に譬え、緊張感のある陰影に富んだ和音で歌い上げている。そこにあるのは、地に根を張る生命観と運命への諦めである。

この曲は2025年の全日本合唱コンクールの課題曲に選ばれた。

III 芥子の葉

1912年5月の作詩。この7月に白秋は人妻との恋により姦通罪で告訴され、青春の謳歌に終止符を打つことになった。白秋は「雪と花火余言」でこの詩を「上つ調子な事は、いかに恋に浮かれてみたとは云へ、今見ても耻かしく思う」と書いている。

詩にはささやかな「芥子の葉」に託された触れれば崩れてしまいそうな繊細な感情が込められ、音楽はそれを中間部の連続して淡く揺れる旋律と和音で流し、最後に静かに長調の和音で纏めている。

この詩は中山晋平作曲の「白秋民謡集」（1929年作）にも取り入れられている。

IV 花火

1911年6月の作詩。組曲の終曲にふさわしい躍動感に満ちた曲である。多田武彦はドビッシューを好み、ドビッシューの前奏曲第2巻の終曲「花火」にあやかって終曲に「花火」を配置したとも言われる（多田武彦データベース）。夜空に一瞬だけ咲き、消えて行く花火の美しさと儂さを明快なリズムと力強い男声合唱らしい和音で歌い上げる。

これまでの3曲に秘められた想いが、ここで爆発する展開が組曲全体を締めくくっている。

（解説：B2 柳田 圭一 参考：詩集「雪と花火」「多田武彦データベース」など）

団員大募集！

～小田原男声合唱団は、団員を募集しています～

練習日：火曜日（週1回）18:30～20:50 練習場所：旭丘高校 音楽室（4F）～小田原駅東口より徒歩6分

E-Mail：odadan1971@gmail.com URL：<https://odadan1971.org>

♪ 曲 目 解 説 ♪

II 男声四部合唱のための「歌謡デラックス」 石若 雅弥 編曲 指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

本作の編曲者、石若雅弥（いしわかまさや）氏は作曲家であり合唱指揮者である。1981年大阪生まれ。京都市立芸術大学作曲専攻卒業。

合唱作品を中心に出版楽譜は150冊以上で、金子みすゞの詩に作曲した「不思議」が2025年度全日本合唱コンクール課題曲に選ばれている。作曲の傍ら、関西を中心に約15団体の合唱団の常任指揮者・音楽監督などを務めている。彼の経歴を見るとアニメ曲、歌謡曲などの編曲作品が多数掲載されている。筆者の学生時代の合唱団員にも流行歌を合唱曲に編曲して歌わせていた仲間がいたことを記憶している。彼もその一人なのかと思われる。

本作の制作のきっかけを編曲者コメントより拾ってみよう。

「『お客さまもよく知っている曲を!』という考えから生まれた『歌謡デラックス』シリーズです。既刊の『同声二部合唱版』『混声四部合唱版』に続き、男声合唱の魅力がより伝わるよう今作を新たに作りました。…既刊のものよりも音数を増やし、より【ダイナミックに!】【カッコよく!】仕上げました。」とある。さらに「(まじめに)オーソドックスに歌うのもよし、『こぶし』やモノマネを入れるのもよし、踊りながら歌うのもよし、自由に演奏してください。…客席も一体となって盛り上げられるような演出を考えていただけるとよりよいかと思えます。」

いやはや大変にハードルを上げていただいている。オーソドックスな演奏が得意かはさておき、エンターテインメント面の取り組みには遅れてきたオダダンが一流のエンターテイナーでいらっしゃる辻秀幸先生とタッグを組んでいかにこの作品を料理していることか。お楽しみください。

I 北酒場

細川たかし(歌) なかにし礼(作詞) 中村泰士(作曲)
第24回日本レコード大賞・大賞(1982年)

「北の酒場通り」とはどこか? 「細川ゆかりの札幌の『すすきの』だ」、「いや、もっと寂れた東北地方の居酒屋だ」などなど。特定の地名や実在の場所を直接的に示しているわけではなく、北国の情緒や雰囲気、寒冷地の酒場街をイメージしたものと考えられる。一方で大阪の「北新地」説などもまことしやかに語られているが根拠は不明である。「髪の長い女」「涙もろい男」は誰か、は知る由もない。

II 津軽海峡・冬景色

石川さゆり(歌) 阿久悠(作詞) 三木たかし(作曲)
第19回日本レコード大賞・歌唱賞(1977年)

石川さゆりがアイドル歌手から本格的演歌歌手へと変貌した曲であり演歌を代表する楽曲となっている。(筆者は同世代であり白い帽子の似合うバリバリのアイドルであった。) 阿久悠から「津軽海峡・冬景色」のフレーズで終わるように要望があったとされる。上野駅を発って夜行列車で冬の青森県にたどり着き、黙々と青函連絡船に乗って津軽海峡を越えて函館駅に渡る人々を描いた叙事詩である。なお青函連絡船の2~3等客室から竜飛岬は見えないらしい。

III 喝采

ちあきなおみ(歌) 吉田旺(作詞) 中村泰士(作曲)
第14回日本レコード大賞・大賞(1972年)

亡くなってしまった恋人を思いつつステージで歌っているという設定の曲である。発売当時はちあきの実体験を元にして作られた「私小説歌謡」として売り出された。実際には作詞者はちあきのエピソードを知らずにこの詞を書いていたが、ちあきの体験と偶然似ていたため「実体験」とすることでプロモーションに活かすという戦略をとったといわれている。「動き始めた汽車」は何か? で「鉄ちゃん」たちは盛り上がっているらしい。

IV 雨の慕情

八代亜紀(歌) 阿久悠(作詞) 浜圭介(作曲)
第22回日本レコード大賞・大賞(1980年)

八代亜紀の楽曲では阿久悠が前年発表した「舟唄」が男心を歌にしていることに対し、「雨の慕情」は女心を歌にしたものとされる。阿久悠は、当初「雨々ふれふれ」というタイトルを考えていたと言われる。「これは雨の歌だけど湿っぽい演歌ではない」と感じ「私のいい人つれて来い」の部分にどこか前向きなイメージを持ったことから、サビの明るいメロディとなった。

V さそり座の女

美川憲一(歌) 斎藤律子(作詞) 中川博之(作曲)
(日本レコード大賞など) 受賞歴無し(1972年)

「柳ヶ瀬ブルース」と並ぶ、美川の代表曲のひとつである。強烈な印象を残す同曲であるが不思議なことにレコード大賞などの受賞歴はない。美川も紅白歌合戦での奇抜な衣装やモノマネの印象が大きくなっているように思われる。一方で「さそり座の女」の大ヒットが「星占いブーム」に火を点けたといわれており「十二星座」によるアルバムも制作されている(らしい)。「星占いから見る女性の生き方」などの解説が付いている(らしい)。(筆者は他の星座の曲を聴いたことはない。)

VI きよしのズンドコ節

氷川きよし(歌) 松井由利夫(作詞) 水森英夫(作曲)
第44回日本レコード大賞 金賞(2002年)

(筆者の記憶では「ドリフの・・・」であるが) 今回の編曲のベースは2002年の氷川きよし版のシングルである。当初「若い男女の恋物語」をテーマにする予定だったが、氷川の意向で「故郷にいる母親への思い」が3番として追加された。オリジナルの歌詞・メロディと海軍小唄の替え歌で構成される。囃子詞は『アキラのズンドコ節』を模倣した「ズンズンズンズンドコ」で、その直後にファンが「き・よ・し」と合いの手を入れるのがお決まりとなった。

(文責: T1堀内哲夫 参考: 「石若氏のホームページ」 「カワイ出版の楽譜の石若氏の巻頭言」 「Wikipedia」 など)

♪ 曲 目 解 説 ♪

Ⅲ 男声合唱組曲「月光とピエロ」

堀口 大學 作詩 清水 脩 作曲
指揮 辻 秀幸

堀口大學（1892年-1981年）東京都本郷区森川町一番地に生まれる。父が当時、東京帝国大学法科学生で家が赤門前であったことに因み「大學」と命名された。1910年新詩社同門の佐藤春夫と共に慶応大学文学部予科に入学。翌年メキシコ公使の父に従い、慶大を中退し日本を離れることとなった。その短い在学中に永井荷風の始めた『三田文学』に詩歌を発表。その縁により『月光とピエロ』の出版の際には荷風に序文を依頼した。1911年以降、外交官の父に伴い9年間を欧米で過ごした。ブラジルにて『月光とピエロ』を自費出版し、日本文壇に問うたのは、弱冠27歳、1919年（大正8年）、青春のただ中であつた。明治から昭和にかけての日本の詩人・歌人・フランス文学者。訳詩書は300点を超え、日本の近代詩に多大な影響を与えた。文化功労者・文化勲章受章者。

清水脩(1911年-1986年)「月光とピエロ」は男声合唱曲の原点で代表作である。1949年、自身の指揮で東京男声合唱団により初演。1948年の第1回全日本合唱コンクール課題曲として先に「秋のピエロ」が入選した時、清水脩は未だ新進作曲家であつた。楽譜コーナーでは男声は勿論のこと、混声、女声合唱組曲が今では当たり前のように並んでいるが、『合唱組曲』という形式は清水脩が世界で初めて「月光とピエロ」で使った手法であり、合唱曲の原点となった。

男声合唱組曲「月光とピエロ」について

男声合唱組曲「月光とピエロ」は、フランスの詩人アポリネールと女性画家のローランサンの悲恋の物語が発想の原点である。作品はピエロの孤独と悲恋を描いた日本男声合唱の最高峰の合唱組曲である。

作詩者の堀口大學の処女集「月光とピエロ」の6編の中の4曲、そして4曲目の「ピエロの嘆き」は詩集TEX-VOTO（ささげ物）の7編のうちの1つである。

第1曲「月夜」の曲頭にのみdoloroso（悲しく）と発想記号が書かれているが、これはこの組曲全体の地下水脈として流れる感情そのものを示している。

ピエロとは、本来イタリア古典演劇に登場する下男のこと。コロンビヌに恋するものの、いつも振られる役を演じる舞台上のピエロに託し、恋や孤独の哀しみ、それでもなお人生という舞台で生き続けている。

月光に照らされた孤独なピエロが、見世物として滑稽に振る舞う裏側にある深い悲しみや、やりきれない感情をドラマチックな旋律で表現した作品である。

1912年アポリネールの腕にしっかりとつかまり、女神のようなポーズを気取るローランサンだったが、すでに別れの予感が現れ始めていた。

ローランサンは踊るように、あるいは跳ねるようにアポリネールに会いに来ていたのだ。

ローランサンとアポリネールの愛憎が錯綜した恋は、5年間続いた後破局する。ローランサン29歳の時だった。その後、ローランサンは、ドイツ人画家オットー・フォン・ヴェツェンと1914年結婚して、第1次世界大戦を避けてスペインに亡命する。

1914年ここで堀口大學と出会う。アポリネールは、ローランサンの夫の国ドイツの対戦国の連合軍側に従軍し頭に負傷。その後1918年11月10日スペイン風邪にかかり死亡する。

1921年ローランサンはひとりパリに戻り、翌1922年結婚する。かつてのパリの仲間は、暖かく彼女を迎えた。39歳の時である。

時代は下り、ローランサンは、1956年6月8日心臓発作のためパリのアパートマンで死亡する。純白の衣装を身にまとい、手には赤いバラの花を握りしめたその遺骸の胸には遺言通り、若き日にアポリネールから送られてきた手紙の束が載せられていた。

享年72歳。生涯にたった一度と呼べるような運命的な恋だった。なお、ローランサンもアポリネールも私生児であり、当時のフランスにおいては、差別の対象であつたことをつけ足しておきたい。

1. 月夜

月夜を一人寂しくたたずむピエロ。愛するコロンビヌの姿はもはやない。いつも滑稽な所作で人々の笑いを誘うピエロが、独りぼっちになって、ひしひしと感じる孤独感。待てども待てども愛するコロンビヌは現れない。「あまりにことのかなしさ」に涙し、さいなまれる姿が浮かび上がる。

2. 秋のピエロ

悲しく、孤独であってもピエロを演じなければならぬ。生活のためと分かっているが、常にやりきれない気持ち、「O（オー）の形の口を」とはその心からの叫びに他ならない。秋という季節はその無常感を深くし、さいなまれる心から涙が流れる。

3. ピエロ

白粉で真っ白な顔は、月の光に照らされて一見明るく見えるが、その下にある本当の素顔は、儂くなんと辛く寂しげな顔をしていることだろうか。

4. ピエロの嘆き

どこまでも悲しさを背負って生きていくピエロ。月をやもめに譬え、似た者のピエロを月の私生児に見立て、母なる天の月からも一人離れ、舞台の上で泣き笑いして世を過ごしている悲しさ。

5. 月光とピエロとピエレットと唐草模様

舞台照明の月光の下、ピエロとピエレット（女道化師）は表面では明るく心に涙して絡み合うように踊っている。歌い踊り続けることが生への証しかのように。

（解説：T2 杉本 健二 参考：第34回定期演奏会曲目解説など）

小田原男声合唱団第55回定期演奏会 2027年5月を予定

♪ Team ODADAN (先生方) のプロフィール ♪



常任指揮者 辻 秀幸

東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科前期修士課程修了。イタリアミラノを中心に欧州音楽遊学、各地でコンサートに出演し好評を博す。その後、国内外で伊・独・日本歌曲を中心にユニークなりサイトル活動を展開。オペラではその歌唱と演技で度々新聞各紙で絶賛された。宗教曲演奏のスペシャリストとしてもソリスト、指揮者としてその活動は常に注目を集めている。アマチュア合唱団の育成にも力を注ぎ、現在16団体

の指導に関わっている。日本全国で合唱講習会・合唱祭での講師、コンクール審査員を務める。コーラス関係のテレビ、ラジオ番組での出演も多く身体と共に活動の場は常に広がり続けている。日本合唱指揮者協会会員、洗足学園音楽大学講師を務める。

2016年より小田原男声合唱団の常任指揮者。



指揮者 村田 雅之

石川県白山市出身。独学で指揮・ピアノ・打楽器を始め、中学時代より吹奏楽部で指揮者、合唱部にてピアニストを務める。石川県立金沢泉丘高等学校理数科を経て、横浜国立大学工学部出身。大学在学中はグリーククラブに籍を置き、1年次より学生ピアニスト、3年次には学生指揮者を務める。在学中より多くの一般合唱団や講習会に参加、合唱全般の研鑽を積み、栗山文昭、松下耕、伊東恵司の各氏から影響を強く受ける。合唱団お江戸コラリアーズ(全日本合唱コンクール全国大会にて文部科学大臣賞の受賞団体)、なにわコラ

リアーズにおいて、歌い手の他、指揮、ピアノ、打楽器を担当。現在、音楽関連会社に勤務のかたわら、指揮・指導活動、アンサンブルピアニスト活動を行っている。合唱団お江戸コラリアーズ、横浜国立大学グリーククラブ、男声合唱団みはるかす、男声合唱団東鶴、立正大学グリーククラブなどの合唱団において、指揮・ピアニスト・アンサンブルトレーナーを務めるほか、多くの団体にて客演指揮、客演ピアニストの機会も多い。2014年にトレーナーとして小田原男声合唱団で指揮・ピアノを担当する。2016年より指揮者に就任。



ピアノ 中根 希子

小田原市出身。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻 卒業。第3回長江杯国際音楽コンクール第2位等多数入賞。ウィーン、シカゴ等での音楽セミナーマスタークラス参加、ディプロマ取得、修了演奏会出演。植田克己、佐藤俊、ノエル・フローレスの各氏に師事。1999年ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念及び国際ショパン記念演奏会」に出演。2007年以降「市民による小田原音楽フェスティバル」では、小林研一郎・末廣誠・広上淳一・富澤裕・山田和樹・黒岩英臣・佐藤眞・瀬山智博の各氏の

指揮のもと、第九・モーツァルトレクイエム・ドイツイクイエム・メサイア等の演奏会でピアノアシスタントを務める。2009年ウィーンフィルメンバー、シュトイデ弦楽四重奏団と共演、2012年・2015年小田原でソロリサイタル開催他、2013年ヴァイオリン豊嶋泰嗣、2014年小田原フィルハーモニー、天満敦子他著名人共演、いずれも好評を博す。2021年小田原三の丸ホールに於いて、ピアノ選定に貢献、同年9月ピアノ開きソロコンサートを開催、好評を博す。共立女子大学講師。



ヴォイストレーナー 杉山 範雄

小田原少年少女合唱隊に入隊。ルネッサンスから現代まで多くのアカペラ・アンサンブルを学ぶ。東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに、「コシ・ファン・トゥッテ」ドン・アルフォンソ、「カルメン」エスカミーリヨ、等を演じ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」等、演奏会パスソロにて多数出演、小泉ひろし・小林研一郎・飯森範親等、各指揮者のもとソリストを務める。

また、合唱指導にも意欲的に取り組み、文化庁講師派遣によるワークショップ・関東各地合唱祭の講師を務める。現在、東京・神奈川を中心に指導団体は13におよぶ。小田原男声合唱団、中央区プリエール・ジュニアコーラス、桐朋学園大学音楽学部附属『子供のための音楽教室』等の歌唱指導にも取り組む。神奈川県合唱連盟副理事長。日本合唱指揮者協会会員。神奈川県文化芸術振興審議会委員。

♪ 小田原男声合唱団団員2026 ♪

T 1	T 2	B 1	B 2
石井 蔵之助 (鎌倉市)	青野 幸夫 (秦野市) 休	上利 宏司 (小田原市)	一色 義信 (秦野市) PL
斎藤 恵司 (伊勢原市) 技顧	白石 久司 (開成町)	網盛 一郎 (小田原市) PL	磯田 幸男 (小田原市)
佐久間 隆弥 (大和市) 団	杉本 健二 (南足柄市)	岩越 万里 (小田原市) 休	金子 礼存 (秦野市)
露木 聡 (小田原市)	高瀬 昇次 (小田原市) 団	久保 友宏 (海老名市)	坂口 宗夫 (小田原市)
中島 弘光 (南足柄市)	津田 富士夫 (小田原市)	中村 敬 (南足柄市) 団	鈴木 壽久 (南足柄市)
堀内 哲夫 (小田原市) PL	福井 隆 (二宮町) PL	野口 吉昭 (横浜市)	田島 達也 (南足柄市) 団
水城 高嶺 (秦野市)			千葉陽一郎 (海老名市) 休
			廣瀬 友二 (秦野市)
			柳田 圭一 (湯河原町) 技顧

※ PL: パートリーダー 技顧: 技術部顧問 団: 団員部 休: 休団員

<運営メンバー>

団長/情報部長	杉本 健二	財政監査	一色 義信
副団長/技術部長/事業部長	野口 吉昭	団内指揮者	福井 隆
事務局長/財政部長	上利 宏司		
団員部長	高瀬 昇次		
渉外部長	堀内 哲夫		

<定演パフォーマンスメンバー>

リーダー	野口 吉昭	パフォーマンス	柳田 圭一・堀内 哲夫・杉本 健二
舞台	吉田 秀樹様	譜捲り	柏木 晶子様
記録	稲子 紀夫様	アウソ	石崎 雅美様
録音	上利 宏司	受付・案内	混声合唱団シガキ'94様
			混声合唱団小田原木曜会様
			小田原市文化サポーター
			(レセプションリスト) 様

♪ ワンステージメンバー2026 ♪

T 1	T 2	B 1	B 2
加藤 哲雄 (秦野市)	坂口 新治 (南足柄市)	熱田 隆純 (南足柄市)	亀山 忠彦 (小田原市)
河田 憲 (南足柄市)		小西 正文 (茅ヶ崎市)	矢野 純 (横浜市)
		高橋 茂樹 (小田原市)	



E-Mail : odadan1971@gmail.com
URL : <https://odadan1971.org/>

